

平成30年度第1回パートナー県政推進会議の開催結果について

平成30年8月
県民課

第1回目のパートナー県政推進会議を開催し、鳥取県の元気づくりについて意見交換を行いました。

1 日時等

- (1) 日時 平成30年8月18日(土) 午後3時から5時まで
- (2) 場所 ホテルモナーク鳥取
- (3) 出席者 委員14名、知事、元気づくり総本部長ほか
- (4) テーマ 鳥取県の元気づくり「本県の強み・特色を生かした地方創生の更なる取組」

2 主な意見等

○ふるさと教育の充実等

- ・小さい頃から、自分の住んでいる町に誇りを持たせる教育をしてほしい。大人も、「何もない」ではなく地元
の素晴らしさを分からなければならない。
- ・県内の高校生が卒業後、県外に出ることをマイナスと捉えるのではなく、県外で本県の良さをしっかりと語れ
るような力を身に付けることが大切である。
- ・地域の良さを抽象的な言葉で聞いても、高校生には実感がわかない。地域の良さは体感や経験を通して分かる
ものなので、そういう機会をもっと増やしてほしい。
- ・高校で「鳥取県の魅力について知ろう」という授業があるが、なぜその必要があるのかを明確に教えて欲しい。

○子育てしやすい環境づくり

- ・ここ10年で子育て世代の環境は大きく変化し、子育てだけでなく、仕事や家事でも忙しくなっている。乳幼
児期の影響が学童期に出てくることもあるので、愛にあふれた子育てができるような環境を整える必要がある。
- ・転勤や、移住してきたお母さんの息抜きになる場所が少ない。くつろいで、交流や相談が出来る場所が欲しい
という意見を多く聞く。

○都会と田舎の交流の必要性

- ・都会と田舎が交流し、相互に子どもを1週間程度受け入れるような施設や場所があれば、それぞれの文化の違
いを知ることが出来る。若者にはそういう体験をして欲しい。

○その他

- ・世界に羽ばたくスポーツ選手を育てようと県は「鳥取ジュニアアスリート」の育成に取り組んでいるが、県内
の学生だけでなく、県外学生にも対象を広げていただきたい。それにより、日本代表を目指す学生が集まり、
若者が増える。そのまま鳥取県に定住し、将来的には指導者になることもある。
- ・インバウンドも増え、鳥取県に定住する外国人も増えてきている。地域や個人の交流を通じて海外とつなが
ることもできる。地域住民と一体となった交流を通して、鳥取県を元気にしたい。

3 今後の予定

会議でいただいた意見について状況等を把握し、第2回会議(11月以降開催予定)において議論を深め、県施策等への反映を検討する。



4 委員

[全18名]

氏名	所属等	備考
今井 正和 (いまい まさかず)	公立鳥取環境大学 副学長	
加持谷 典範 (かじたに みちのり)	江府町老人クラブ連合会若手委員会 委員長	
川口 博樹 (かわぐち ひろき)	山陰松島遊覧 (株) 代表取締役	
杉村 正男 (すぎむら まさお)	鳥取県ボート協会 副会長	
薛 幸夫 (そる へんぷ)	在日大韓国民団鳥取地方本部 常任顧問	
高虫 秀樹 (たかむし ひでき)	高虫農場 代表	
瀧山 佳世 (たきやま かよ)	とっとり暮らしアドバイザー	
福井 靖子 (ふくい やすこ)	とっとり県消費者の会 会長	
藤澤 幸恵 (ふじさわゆきえ)	NPO法人えがおサポート 代表理事	
村上 達彦 (むらかみ たつひこ)	青翔開智高校 2年生	
本池 利広 (もといけ としひろ)	地域消費生活サポーター	
藪 恵美子 (やぶ えみこ)	倉吉東高校 2年生	
矢吹 勇斗 (やぶき はやと)	倉吉東高校 2年生	
山内 有二 (やまうち ゆうじ)	鳥取県商工会青年部連合会 会長	
河上 睦子 (かわかみ むつこ)	日南町福栄女性消防隊 隊長	欠席
坂本 桃子 (さかもと ももこ)	鳥取大学地域学部 2年生	欠席
柴田 梨央 (しばた りお)	鳥取大学地域学部 2年生	欠席
山本 伊都子 (やまもと いつこ)	琴浦まちづくりネットワーク 幹事	欠席